



DSDC ACCREDITED
PRODUCTS

Age inclusive design and Forbo Flooring

認知症と共に生きる人々のための
優しいデザインとは？

DSDC 認定

フォルボ床材のガイドライン／LRVの使い方

全人口の30%が高齢化を迎える時代に 認知症の人たちの立場に立ったモノづくりが求められています

認知症には、視覚障害や認識力の低下などがともないます。
LRV(光の反射率)が考慮されていない床や壁の
視覚的な作用が、転倒の危険性、混乱や不安などをもたらし、
自立した行動を妨げる一因となってしまうことがわかっています。
フォルボは、スターリング大学DSDCが長年研究・開発した
「認知症に優しいデザイン」を導入し、
危険やストレスを軽減する床材選びをご提案しています。

DSDCとは

DSDC(スコットランドのスターリング大学認知症サービス
開発センター)は、認知症の人々の生活を向上させるための
様々な専門的知見を有する大学付属の研究機関です。
25年以上にわたり、世界各国の研究や実践例を集約し、
認知症に優しいデザインの重要性を広めています。
デザインコンセプトが実践されていると判断された施設
や製品に認証を授与しています。

床材を選択するときに注意すべき4つのこと

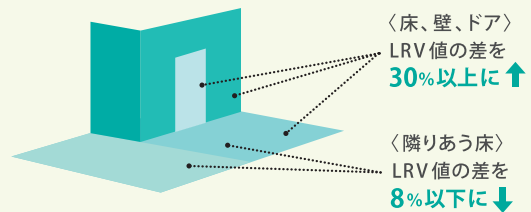
1

高齢化・認知症の
視覚障害を理解する



2

LRV(光の反射率)を適切に



3

グレア現象を避ける



4

大きな柄を避ける



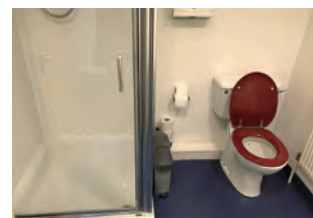
1 健常者とは違う認知症の視覚

目の高齢化が進むと、ブルーや紫の色が徐々に失われ見えにくくなり、目の黄変化や白内障、緑内障などさまざまな視覚障害が起こります。空間認識において「段差がわからない」「どこがドアかわからない」「平面を段差や穴だと感じる」「部屋の床と廊下に隔たりを感じて外に出られない」などの感覚になり、認知症の人たちにとって危険性やストレスが高くなります。

そこで重要になるのが床や壁のLRV(光の反射率)の調整です。

右の写真は、健常者と認知症の人たちの視覚をイメージしたものです。色合いや視野、鮮明度などの違いをご覧ください。写真の内装は、壁、床、トイレの便座のLRV値の差異がはっきりと認知できるため安全性が高く、認知症の人たちに優しいデザインに仕上がっています。

写真：DSDCの考え方をベースに、フォルボが独自に作成



健常者の視覚



高齢者の視覚



認知症の視覚

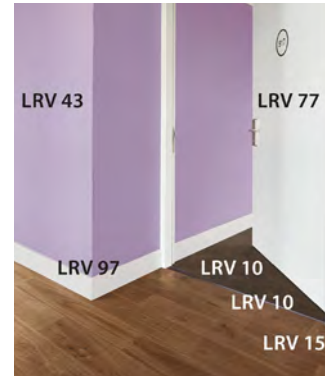
2 デザインをするとき、LRV(光の反射率)を計算して材料を選びましょう

〈床、壁、ドア〉初めにLRV(%)を設定してください。床と壁、またはドアとのLRV値の差は、最低でも30%以上のコントラストをつけてください。認知症の人たちは、壁と床との境界をLRV値の差によって認識することができ、衝突事故や転倒事故を未然に防ぐことに繋がりますので、30%以上のLRV値の差が重要であると言われてます。ドアについても壁や床とのLRV値の差を30%以上に保ってください。そして、次に色合いを選択してください。

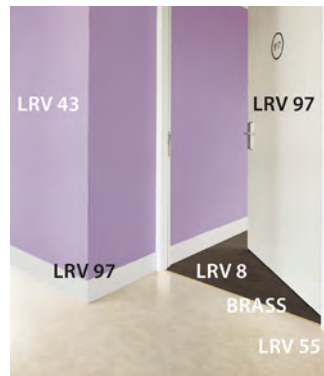
〈隣りあう床〉部屋と廊下などの床材同士を繋ぎ合わせる場合には、できるだけ同じ床材の品番を使用してください。異なる床材を使用する場合のLRV値の差は最大でも10%以内(8%以内推奨)の材料を選択してください。また、見切り材にはアルミニウムなど金属の材料は一切使用しないでください。見切り材はどちらかの床材と比較してLRV値の差を3%以内にしてください。3%以上の差をつけると、そこには大きな段差があるものと認識され、毎日の生活の中で高いストレスが溜まることがあります。



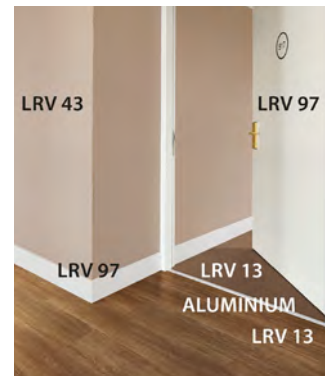
- 壁とドアのコントラストが明確
- ドアの前後の床材、見切り材のLRV値の差が推奨内



- ドアの後の床材と見切り材のLRV値が等しく、段差を感じない
- 手前の床材のLRV値も近い



- ドアの前後の床のコントラストが強すぎる
- 真鍮の見切り材を使用していて段差を感じる



- アルミニウムの見切り材を使用していて段差を感じる

このノウハウはさまざまな部位で使用することができます。特に、トイレの便座の色をはっきりと認識できる色に替えることは有効です。認知症の人たちが自らトイレに行けるようになることで、介護する側も介護される側もストレスが緩和されると言われています。

3 ワックスを塗布した床材や、光沢のある材料は使用しない

床のテカりは、認知症の人たちにとって氷の上を歩いているような感覚になり、高いストレスを感じるようです。また、光沢や照り返しの光は認知症患者のみならず、そこで介護する人たちにとっても疲労増加に繋がり良い環境が維持されているとは言えません。



4 大きな柄の入った材料を床や壁に使用しない

大きな柄は、歪んで見えたりする場合があります。心が不安定な状態に陥ります。健常者には理解できにくいことですが、カーペットの大きな柄模様は、平滑な状態で見ることができなくなります。それらは、穴が空いた状態や床や壁仕上がりが歪んだ状態で認識されるケースが多いとの研究報告がでています。ストレスや不安・不満などが溜まってくるや鬱状態やコミュニケーション不足になり、非社会性を帯びるようになります。

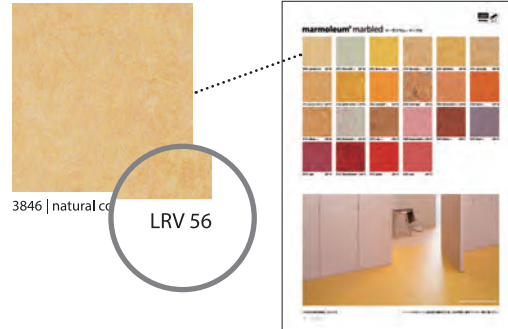


市松模様やヘリンボーンなどのパターン化した材料も避けるべきと言われています。



フォルボは、DSDCで学んだ
認知症に優しいデザインのノウハウを提供し
社会に役立てて行きたいと考えています

フォルボは、床材製品のLRV値(光の反射率)をカタログ
に表示しています。材料選びにお役立てください。
製品・施工に関するご相談、サンプルのご提供の他、皆様
のアイデアを効果的に活かす特注デザインも承ります。



In association with:



For further information contact DSDC at dementia@stir.ac.uk

フォルボ・フロアリングB.V. 日本支店
141-0032
東京都品川区大崎5-10-10
大崎CNビル4階
TEL: 03-5740-2790
FAX: 03-5740-2791
www.forbo-flooring.co.jp/

監修 ウェルネス・ステーション事業機構
研究員 小針 秀夫
113-0022
東京都文京区千駄木3-47-1
Mobile: 090-1436-1785
FAX: 03-5814-2184
E-mail: hkobari8221@gmail.com

creating better environments

Follow us on



forbo

FLOORING SYSTEMS